

社会科学学習指導案（地理的分野）

日 時 平成25年 月 日（ ） 校時
学 級 糸満市立糸満中学校1年1組
授 業 者 教 諭 内 山 直 美

1. 単元名 第1部 『世界のさまざまな地域』 第3章 「世界の諸地域」
5節 オセアニア州「オーストラリアに見る多文化社会」

2. 単元設定の理由

(1) 教材観

この単元は、世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活に関わる、州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることをおもなねらいとしている。

「中学校学習指導要領解説社会編」では、我が国の国土認識だけでなく世界の諸地域の地理的認識を養うことを重視することが明記されている。このような地理的認識を養うためには、日本や世界の様々な地理的事象に生徒自らが関心をもって学習に取り組むことができるようにするとともに、学習を通してさらに関心が喚起されるよう指導を工夫する必要がある。その中で、「世界の諸地域」においては、学習で取り上げる地域や国それぞれが、世界的視野から見てどのような地域的特色をもっているか考えさせることが大切である。さらに、世界地誌学習の特色の一つは「主題追究学習」を取り入れたことにある。主題追究学習では、習得した知識が活用され、各地域の主な特徴を取り上げて主題とした学びを構成する。「解説社会編」では、主題は、取り上げる地理的事象、既習内容、難易度、生徒の生活体験、学習活動、配当時間などから教師によって設定することとしている。主題の設定は各州一つ又は二つの主題に絞り展開するのが適切とし、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象であること、また、我が国の国土の認識を深める上で効果的であることとしている。本研究では、この主題の設定を開発教育の視点で設定し、世界の地理的事象に自ら関心を持ち、主体的に学習に取り組むよう指導を工夫したい。

(2) 生徒観

本授業の実践に当たって、生徒の実態を把握するため、1年生2学級56名にアンケート調査を行った。質問内容は、地理学習に関することや、思考力、判断力、表現力を高めるための授業の内容を中心に記載する。

「地理の授業で世界中にある問題や課題について知りたいと思いますか。」の質問に、57%の生徒が、「思う」「どちらかというと思う」とし、理由に「少しでも知って、自分にできることがあれば行きたいから」や「色々な国でどんな課題や対策法があるのか知りたいから」、「世界をより良くしたいから」などと回答している。43%の生徒は、「あまり思わない」「思わない」とし、理由に「自分では解決するのは難しいから」や「問題や課題があっても今は平和に暮らせるから」などの回答があった。

「授業の中で、問題や課題に対して考えることは好きですか。」の質問に、39%の生徒が、「好き」「どちらかという好き」とし、理由に「みんなで考えるのが好き」や「分かるともっと調べたいと思うから」、「色々な考えを出せるから」などと回答があった。61%の生徒が「あまり好きではない」「好きではない」とし、理由に「難しい内容だと考えるのが大変だから」や「時間がかかるから」などの回答があった。「授業の中で、問題や課題に対して考えたことを、文章にしてまとめることは好きですか。」の質問に、27%の生徒が「好き」「どちらかという好き」とし、理由に「理由を自分のことばでまとめるのが好きだから」や「意味が分かりやすくなるから」などの回答があった。一方73%の生徒が「あまり好きではない」「好きではない」とし、理由に「文章力や説明力がないから」「文章が苦手」など、多くの生徒が苦手意識が高い。「地理を学ぶと、社会の一員としてより良い社会を考えることができるようになりますか。」の質問に、77%の生徒が「思う」「どちらかという思う」とし、理由に「学んだ後、家族と会話ができそうだから」や「日本だけではなく世界に目を向けられるから」

「人を思う社会ができるから」などの会話がかった。23%の生徒が「あまり思わない」「思わない」とし、理由に「社会の一員になるのは難しそう」「学んでも何もしなかったら意味がないから」などの回答があった。77%の生徒は、地理学習と社会参画を意識して取り組める生徒がいることが分かる。

(3) 指導観

オーストラリアは、1770年にスコットランド人が上陸、1788年からイギリス人の移民が始まり、1828年からイギリスの植民地となった。オーストラリアへの移民が増え、開拓が始まると、もともとオーストラリアで生活していたアボリジニと呼ばれる先住民の生活が侵されるようになった。彼らが住んでいた土地が取り上げられ、反抗したアボリジニは殺害されたりした。その後、積極的に移民政策を進め、ヨーロッパなどの白人を優遇し、その他の民族を差別する白豪主義政策が行われてきた。しかし、1973年から白豪主義をやめ、様々な民族や文化を尊重する多文化主義政策がとられてきた。本時は、オセアニア州の追究学習として、「多文化共生」を視点に、移民が多いオーストラリアはどのような社会なのかについて追究させる。また、多文化社会の問題点やその解決の方法について考察させたい。特に、少数派のアボリジニの生活や考え方、オーストラリアの人々との考えの違いを学ぶことは、多文化共生の「互いの文化を尊重し共に生きる」精神に結びつくとも考える。また、多文化社会を学習することは、オーストラリアへの理解を深めるだけでなく、日本国内におけるアイヌ民族への理解や在日韓国・朝鮮人がいること、生活の中に外国人が増えてきていることにも気づかせ、生徒自身が自分の地域や生活を見直すことにもつながると考える。

3. 単元目標

自然環境と産業の関係に着目し、わが国との結びつきにも気づかせ、先住民との共存や多文化社会について理解させる。

4. 観点別評価の規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
・ 広大な海洋を背景に展開される生活や、オーストラリアの多文化社会に着目しながら、オーストラリア州の地域的特色に関心を高め、意欲的に追究しようとする。	・ オセアニア州の国々が、旧宗主国であるヨーロッパの国と密接な関係を保ちながらも、近年アジアとのつながりを深めている理由を考察し、説明することができる。	・ 地図や統計資料などから、オセアニア州とアジア州との深い関係を読み取ることができる。	・ 自然環境の影響を受けながら生活するオセアニア州に人々の様子や、多文化社会の問題点を克服しながら多様な民族が共存するオーストラリアの社会を理解する。

5. 単元の指導計画と評価計画

第3章 (1) 世界の様々な地域 ウ世界の諸地域 (オセアニア) (3時間扱い)

過程	学習のねらい	学習内容	評価規準
習得活動の段階	1 ①オセアニアの自然環境 ・ オセアニア州についての学習に対する関心を高めさせるとともに、島々の広がりやオーストラリアの降水量に着目させて、オセアニアの自然環境のおおまかなようすを捉えさせる。	□オセアニア州の大観 ・ 自然環境に視点を当て、オセアニア州を大観する。 ・ オーストラリア大陸や南太平洋の島々にみられる特色を写真や雨温図から考察させる。	【関意態】オセアニアの自然環境に関心をもち、地域的特色を意欲的に追究しようとする。 【思判表】オーストラリアの降水量と人口分布の関係について考察し、説明することができる。 【技能】地図や雨温図、写真などから、オセアニアの自然環境の特色を読み取ることができる。 【知理】オセアニアの自然環境(地形や気候)を特色づける用語を理解している。
	2 ②自然環境の影響が大きいオセアニアの産業 ・ 降水量と農業との関係、鉱産資源の分布に着目させて、オーストラリアの産業の特色を捉えさせ	□自然環境と産業との関係の考察 ・ オーストラリアやニュージーランドで行われている農業と自然環境との関係を考察させる。 ・ 近年深まりつつあ	【関意態】オーストラリアの広大な国土を活用した農業に関心をもち、自然環境の影響が大きいオーストラリアの産業を、意欲的に追究しようとする。 【思判表】オーストラリアの大陸で放牧が盛んな地域とそうでない地域が見られる理由を、気候の特色と関連づけながら考察し、説明することができる。

		る。	るアジアとの関係を、豊富な鉱産資源との関連で考察させる。	【技能】資料図から、オーストラリアの農業地域や鉱産資源の分布のようすを読み取ることができる。 【知理】オーストラリアでは、広大な国土や豊富な鉱産資源を活用した産業が行われていることを説明することができる。
活用の段階	3時間目 本時	③移民と多文化社会 ・先住民の存在や、移民が多いオーストラリアはどのような社会なのかについて追究させる。	□多文化社会の形成とその問題点の克服方法の考察 ・アボリジニとの共存、移民によって形成された、オーストラリアの社会の成り立ちについて理解させる。 ・多文化社会の問題点やその解決の方法について考察させる。	【関意態】多様な民族が共生するオーストラリアの社会の実際に関心をもち、移民と多文化社会について意欲的に調べようとする。 【思判表】先住民との共存や異文化理解の必要性など、多文化社会で発生することが予想される問題点とその克服のための取り組みについて考察し、説明することができる。 【技能】資料図から、オーストラリアに移住する人々の出身地の変化を読み取ることができる。 【知理】オーストラリアの歩みと共生のための取り組みについて理解している。

6. 指導計画

(1) 題材名(主題)

オセアニア州 「オーストラリアに見る多文化社会」

(2) 開発教育の視点

開発をめぐる問題を克服するための努力や試みを知り、参加できる能力と態度を養うことができる。

(3) 学習目標

先住民の存在や、移民によって形成された、オーストラリアの社会の成り立ちについて理解し、多文化社会の問題点やその解決の方法について考察させる。

(4) 本時の評価規準 (自己評価、パフォーマンス課題 200 字)

(5) 本時の展開

過程	学習活動 ■活動 ◇教師の発問や指示 ○予想される生徒の反応	指導上の留意点 【言語活動】	評価規準
導入 5分	■アイスブレイキング (一斉) ◇オーストラリアのイメージを述べよう。 ◇オーストラリアの動物や自然の様子を写真で確認。 ○多様な動植物、有名な観光地があり、興味を持つ。	【読み取り・解釈】 ・大自然豊かなオーストラリアを動物などからイメージさせる。	興味 関心
展開 35分	■本時の目標の確認 ◇発問1 (一斉) 「オーストラリアの学校の様子を見て、自分たちの教室と比較してみよう。」 ○色々な顔立ちがある。皮膚の色や顔立ちが違う。 ◇多民族、多文化主義であることに触れる。 ◇発問2 (一斉) 「多文化社会の疑似体験をしよう。」 ■多数派と少数派の感想を発表する。 ○仲間がいるとうれしい。1人だと寂しい。 ◇オーストラリアが多民族国家であり、色々な国々からの移民で成り立っていることもふれる。 ◇発問3 (一斉) 「どうしたら、少数派の気持ちを不安にしないで済むだろうか。」 ○多数は、少数派を力で締め付けないようにする。 ○多数派は少数派を締め出さない。	【読み取り・解釈】 ・多文化社会への興味を持たせる。 【読み取り・解釈】 ・イギリス、イタリア、ドイツ、中国のシールは均等に、アボリジニは1枚のみ。 【説明】 ・少数派の意見も尊重し共生していくことを促す。	思考 判断 表現 思考 判断 表現 思考 判断 表現

○少数派を尊重する。		
<p>◇説明 (一斉)</p> <p>オーストラリアのこれまでの歴史やアボリジニに対する扱いについて説明する。</p> <p>■ 1830年～1900年以降の色分けから、開拓の進行とアボリジニの定住地域の変化を読み取る。</p> <p>○開拓が進むとアボリジニは内陸へと追いやられている。</p> <p>○東海岸、西海岸から内陸へと開拓が進んでいる。</p> <p>◇説明 (一斉)</p> <p>オーストラリアは建国以後、多くの移民を受け入れた様子を説明する。白豪主義から多文化主義への流れも説明する。</p> <p>■移民の変化を国別で考えたり、年代で考えたりする。</p> <p>○遠いイギリスやヨーロッパからの移民が少なくなり、アジアやオセアニア地域の移民が増えた。</p> <p>■貿易相手国にアジアの国が多いことに気づく。</p> <p>○1965年はイギリスが22.1%で1位だが、1975年から日本が1位、2008年では中国が1位になっている。</p> <p>■シドニーオリンピックでのパフォーマンスを確認する。</p>	<p>【読み取り・解釈】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入植から、植民地支配、白豪主義の歴史の中でのアボリジニの扱いに触れる。 ・入植からイギリスの植民地支配、白豪主義から多文化主義への説明を行う。 ・遠いイギリスから近くのアジアやオセアニア州から移民が増えたこと、貿易との関係に触れる。 	知識 理解
<p>◇発問4 (グループ)</p> <p>「大地とともに生きる」アボリジニの生活と態度を詩のもとに学ぼう</p> <p>■グループで協力して考える。</p> <p>■アボリジニ道具、ブーメランをもとに、アボリジニの生活を学ぶ。(ブーメランは10の使い方がある。)</p>	<p>【説明・論述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大地は命だ」の詩の空欄に言葉を入れる。 ・ブーメランがいかにくぐれているか、アボリジニが道具を作るのに熟練しているかが分かる。 	思考 判断 表現 技能
<p>◇発問5 (グループ)</p> <p>「アボリジニとオーストラリア人の意見の違いを知ろう」</p> <p>■グループで協力して分ける。</p> <p>■アボリジニとオーストラリアの人々の考え方に違いがあることに気づく。</p> <p>■違いの解決には、互いの考えの尊重があることに気づく。</p>	<p>【読み取り・解釈】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10枚のカードをアボリジニとオーストラリアの人々の意見に分ける。(5枚対5枚になるようにヒントも与える) 	思考 判断 表現 技能
<p>まとめ 10</p> <p>■ふり返り (自己評価・パフォーマンス課題 200字)</p> <p>「オーストラリアがめざす社会 (多文化社会) とはどのような社会になっていくとよいか、自分の考えを書こう。」</p>	<p>【説明・論述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、日本でも多文化共生の考えが高まってきていることも触れる。 	思考 判断 表現

(6) 本時の評価

◇オセアニア州の解決すべき課題を、根拠を持って説明できている。 【思考力・判断力・表現力】
 〈評価のための基準〉

評価	内 容
A	オーストラリアがめざす社会 (多文化社会) とはどのような社会になっていくとよいか、複数の根拠をもとに論理的に自分の意見を述べている。
B	オーストラリアがめざす社会 (多文化社会) とはどのような社会になっていくとよいか、一つの根拠をもとに論理的に自分の意見を述べている。
C	意見に根拠がなく、論理的ではない。(論理的に記述できるように記入の例を提示する)

*根拠：具体的に *論理的：意味の通る

【参考文献・資料】

- ・『地球市民教育のすすめ方』(デイヴィッド・ヒックス・スタイナー 1997年)
- ・『オーストラリア発見』(豪日交流基金)
- ・『オーストラリアを知るための58章』(越智道雄 2010年)